

環境ミニ知識

新聞、テレビ、ニュースなどで見聞きするけれど、あまり知らない「言葉」や「現象」について少し知ってもらえたらいいな！と、ミニ知識を紹介するコーナーです。



知っとこ気候危機 「気温上昇とその影響」

温室効果ガスの一つ二酸化炭素の排出量がこのまま増え続けると、地球は後戻りできなくなると言われています。実際 1.5℃上がるとどうなるか、2.0℃上がるとどうなるか？想像できますか？下のようなことが起きると予想されています。

	厳しい熱波に襲われる人口 全人口の 37%	洪水の影響を受ける人口 170%増	2100 年までに海面上昇は… 46cm 上昇	消失するサンゴ礁 ほぼ全て	北極で海氷が消失する頻度 少なくとも 10 年に 1 度	2100 年までに深刻な水不足 都市人口の 4 億 1 千万人
1.5 度上昇	全人口の 14%	100%増	40cm 上昇	70~90%	少なくとも 100 年に 1 度	都市人口の 3 億 5 千万人

「無線給電」が国内で使用可能に

電気を無線で給電できる「無線給電」をご存知ですか。送受信した電波のエネルギーを電力に変える仕組みということですが、難しい原理はさておき、数メートルから 10 メートル程度離れたところにある機器に電波を使って電気を送ることができ、複数の電子機器に同時に給電でき、電源ケーブルや電池交換が不要となります。

ひとこと

春、引っ越しや模様替えがしたくなる季節ですね(^^)v 環境情報コーナーも模様替え実行中です！

昨年末、①リユースコーナーを拡張し外からもわかるようにし ②階段から環境情報コーナーがあることがわかるように倉庫の扉に案内を貼りました。この春は、新しいスタッフが③自転車発電コーナー看板を作成してくれ、④インターン生達が室内のパネルの張り替えをしてくれました。今後、⑤入り口の看板設置やグラウンドから見える窓の看板設置、⑥季節の環境情報発信パネルの作成もしようと思っています!!

多くの方に利用いただけるようにしたいので、みなさんのご意見・アドバイスお待ちしております。



ひらかた環境ネットワーク会議 会報「環境ひらかた」第 73 号

令和 4 年 4 月 1 日発行（年 4 回発行）
発行：（特活）ひらかた環境ネットワーク会議



〒573-0042 大阪府枚方市村野西町 5 番 1 号
サブリ村野内（旧村野小学校）

電話 072-847-2286

FAX 072-807-7873

E メール jimukyoku@hirakata-kankyou.net

ホームページ <http://www.hirakata-kankyou.net>

発行責任者：伊丹 均 編集責任者：丸井 晶子

この発行誌は再生紙を使用しています

市民・事業者・行政が協働し 環境先進都市を実現する ひらかた環境ネットワーク会議 会報誌

NO. 73
春号
令和 4 年
(2022 年)

環境ひらかた



エコフォーラム 2022 直前でブース出展なしのフォーラムに



“2 月と言えばエコフォーラム”「去年はできなかったけれど今年は開催！」と、初めてのサブリ村野での開催に意気込んで昨年暮れから準備を進めていた「エコフォーラム 2022」でしたが、開催日前日、当日準備を始めようとしたその矢先、「オミクロンの感染が拡大しているため、表彰式のみを行うことになった」との連絡が入りました。連絡を受け急遽関係各方面への連絡をし、当日を迎えることになりましたが、一般参加者への連絡は到底徹底できるはずもなく、枚方市及び当法人の H・P での告知のみの対応となりました。市民活動研修室で「市民環境表彰」「緑のカーテンコンテスト表彰」「環境家計簿エコノート継続認定式」「エコ宣言当選者発表」を行いました。情報コーナーではリユースコーナーの拡大版も行い、会場にお越しいただいた皆さんには喜んでいただくことができ、無事終えることができました。



*****目次*****

エコフォーラム 2022 開催	P 1
第 4 回 COOL CHOICE 「ひらかたみんなでエコ宣言」結果報告	P 2
春のインターン生紹介	P 3
部会報告	P 4・5
お知らせコーナー	P 6
環境トピックス VOL. 39	P 7
環境ミニ知識	P 8

第4回 COOL CHOICE

「ひらかたみんなでエコ宣言」2021 結果報告

“COOL CHOICE”という言葉、定着してきたように思っていたのですが、意外に知られていない言葉のようです。何も横文字を使わずとも“賢い選択”とさえいえると思いますが、環境省はこの言葉を使っています。

さてその“賢い選択”ですが、皆さんは、どのような場面でどのように賢く選択されていますか？今回で4回目となった「ひらかたみんなでエコ宣言」でその傾向が見て取れます。移動の場面や、TV視聴の場面ではあまり賢い選択がされているとは言えませんが、水を使ったり電気を使ったりする場面では賢い選択がなされているようです。

今回の特徴 & 集計結果

※詳細は後日配布予定の報告書をご覧ください※

○公共交通の利用が減った

コロナ禍で公共交通の利用を控える人が増えたのでは？社会問題になっています。

○家庭での省エネ意識が向上した

在宅勤務や外出を自粛するような生活となり、家庭での電気使用量が増えたことで、無駄な電気やTVは消そうとの思いから、省エネ意識が向上したと推測されます。

○マイバックはほぼ定着した

法改正以前はマイバックの持参を宣言する人が多かったのですが、昨年度は大幅に減り、今年度は殆んどいなくなりました。マイバック持参が定着してきたと言えます。

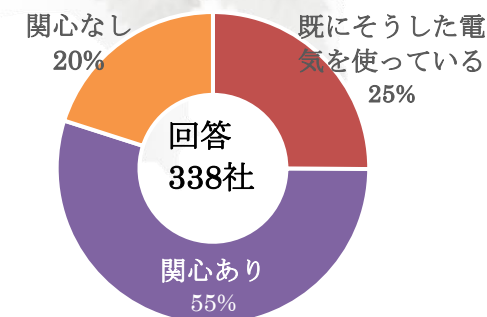


環境トピックス

Vol. 39

私達を取り巻く環境は日々変化しています。最近の環境問題や、環境に関する事柄について「知ってほしい・知らせたい」情報などをこのコーナーで伝えていきます。今回は、「再エネ化は経営戦略の一つ」「太陽光パネルの寿命ピークがやってくる!!」の問題です。

再エネ・CO₂フリー電源に切り替えることについて



◆再エネ化は経営戦略の一つ

2020年11月、菅前総理が2050年までに温室効果ガス排出実質0宣言をしたことは記憶に新しい(?)と思いますが、昨今**脱炭素社会実現に向けた動きが大企業を中心に広がっています**。このことは2021年7月に資源エネルギー庁が大企業約2,000を対象に行ったアンケート調査でも見て取れます。(グラフ参照)

そしてここで注目すべきは、80%を占める再エネ・CO₂フリー電力への関心が高い企業が挙げているその理由です。

36%の企業が「**RE100などを自主的に目指しているため**」を挙げており、18%が「**サプライチェーンの要請により再エネに切り替えざるを得ないため**」と回答しているのです。

ここに「RE100などを自主的に目指しているため」を裏付けるデータがあります。「RE100」に参加する企業は世界に347社ありますが、日本では、2017年は3社だけでした。しかし2020年には46社、2021年には17社増え**63社となり、アメリカに次いで2番目の多さ**となったのです。

一方、日本における再エネ事情は、昨年閣議決定された「エネルギー基本計画」で日本の発電量に占める**再エネの割合目標を36～38%**としましたが、**2020年度の割合は19.8%**にとどまっているのです。再エネ化のコストは企業にとっては重荷となっており、目標達成には**政府の後押しは不可欠**なのです。

◆太陽光パネルの寿命ピークがやってくる!!

再生可能エネルギーとして広く普及した太陽光発電。そこで使われている太陽光パネルの耐久期間は20～30年と言われており、**2030年代に多くのパネルが寿命を迎えること**になります。

新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)はピークとなる**2036年ごろには年間17～28万トンの使用済みパネル**が出る見込みとの推計を報じましたが、これは発電事業者が負担する廃棄費用をどうするかという課題を突き付けていることでもあるのです。国も対策をとって来なかったわけではなく、**2020年には再エネ特措法の改正**で10kw以上の事業について**廃棄費用の積立化を義務化**し、今年7月から適用を始めます。しかし事業者によっては事業区分を分割して規模を小さく見せるなど規制逃れを行うといったことも生じることも懸念され、どこまで実効性が高められるかが課題となってきます。さらに、その処理方法も、リサイクルか埋め立て処分かを自由に選択できるため、多くの業者は費用のかかるリサイクルを選ばず、埋め立てを選ぶ可能性もあることから、新たな問題が起きることも懸念されます。いずれにしても、処理の仕組みが確立されなければ新たに太陽光発電所を建てるのも難しいと言えるのではないでしょうか。



お知らせコーナー

このコーナーの情報に関する申し込み、お問い合わせはひらかた環境ネットワーク事務局までご連絡ください。 ☎072-847-2286

◆◆◆エコキャップの回収報告◆◆◆

エコキャップの取り組みを通して、環境問題に関心を持ち、行動するきっかけとなることを願っています♪



●エコキャップ R4年3月7日搬入分

重量：270 kg （取組開始からの累計 8,141.8 kg）

個数：116,100 個（取組開始からの累計 3,500,974 個）

CO₂削減量：850.5 kg（取組開始からの累計 25,646.67 kg）

搬入したエコキャップは、再生プラスチック原料として換金され、公益社団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンに寄付され、全国で病気の子供とその家族が利用できる滞在施設の建設費及び運営に充てられます。詳しくは公益社団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンのH・Pをご覧ください。

リユースコーナー 報告

リユースコーナーは2019年6月に開設し、間もなく3年が経ちます。この間多くの方にご利用いただき、非常に喜んでいただいております。その利用状況をご報告します。2022年2月末時点で以下の数値となっています

累計利用点数：4102 点

累計利用者数：830 人



書籍コーナーに 新しい本仲間入り

世界には、国際会議で心に残るスピーチをされた方がたくさんおられます。そんなスピーチを題材にした書籍が、環境情報コーナーの書架に仲間入りしました。ぜひ手に取ってご一読ください。

世界でいちばん貧しい 大統領からきみへ

くさばよしみ・編

ムヒカ前大統領から、日本の子どもたちに贈るメッセージ。



グレタのねがい

ヴァレンティナ・キャメリニ(著)

杉田 七重(訳)

地球をまもり未来に生きる
大人になるまで待つ必要なんてない



あなたが世界を変える日

セヴァン・カリス＝鈴木/著

ナマケモノ倶楽部/編・訳

12歳の少女が環境サミットで語った
伝説のスピーチ



この春のインターン生の活躍をご紹介します

今春4名の学生さんたちがインターンシップ先に当法人を選んでくれました。オミクロンの感染が広まっている中ではありましたが、10日間にわたり環境問題について真剣に考え、「もっと多くの人に環境問題への意識を高めてもらうためには」そして「行動してもらえるようになるには」という難しい課題に取り組んでくれました。その成果を後日皆さんにもお披露目することができればと思っています。ここでは、インターンシップを終えての感想をご紹介します。

春休みの間、私はひらかた環境ネットワーク会議にお世話になりました。私自身、去年の夏から秋にかけて行われたCOP26から地球温暖化が差し迫った課題であることを知り、環境問題に関心を持ち始めました。

活動の中で、環境問題を踏まえた自分の考えを持つこと、そして理想を実際に行動に移すことが大切であることを学びました。私は今後さらに知見を広げ、次の世代に快く受け渡すことができる地球にするための一助となる存在になります。



関西学院大学 人間福祉学部
社会起業科2年 松中 拓澄

春休みインターンさせていただいてます。ひらかたさんに来るまでは環境問題を他人事として考えていました。しかしインターン生と話し合いを重ねていき、環境への意識が変わりました。ペットボトルを買うのを減らしたり、レジ袋や水の出しっ放しなどに敏感になったように感じます。さらに話し合いの進め方もとても勉強になりました。道筋のたて方やどのように伝えと相手に響くのかなど、アドバイスして頂きながら少しずつ完成させることができました。



関西学院大学 社会学科
2年 小屋根 紗香

私は、このインターン活動で環境問題への意識が大きく変化しました。毎回行方ディスカッションでは、現状の問題を深く掘り下げ、答えのない難題を議論することの難しさを実感しましたが、確実に私自身の意識向上につながっていたと思います。

日常の何気ない行動が環境問題の一因になり得るということや、リサイクルの現状など、解決する上での問題を学びました。

短い期間でしたが、有意義で非常に価値のあるインターンでした！



近畿大学 国際学部 国際学科
1年 石原 梨花子

私は今まで地球温暖化が原因で起きた問題をニュースなどで聞いたとき、それを「なんか起きてるな」と他人事としてしか考えていませんでした。でも今回の活動で何故そのような問題が起きているのか、原因を深く考えました。いざ考えてみると原因は単純なように見えてとても複雑で、それを考えて議論するのが楽しくなっていました。今回の活動を通して環境問題の本質を知ることが出来ただけではなく物事に疑問を持って深く分析する力もつけることが出来ました。



大阪府立大学 環境システム学科
2年 大先 圭一朗



部会活動紹介

ひらかた環境ネット会議では、それぞれテーマごとに部会を結成し、主体的に活動を行っています。

環境教育部会

出前授業に全力投球!!

4月！新たな年度が始まりました。しかし「コロナ」の収束が見通せない中、当分行動制限は余儀なくされそうです。

さて、平成21年から令和元年の11年間で約1万人弱の児童に受講してもらっていた「環境出前授業」ですが、コロナの影響で、この2年間は出前授業の依頼も減ってしまいました。それでも、昨年度は15件の依頼があり、部会としての様々な工夫・努力の甲斐があったと喜んでいるところです。

今年度も、昨年度同様、授業内容とその運用方法を各学校の先生方とよく相談し、より多くの児童に「環境出前授業」を受講してもらえるようにしたいと思っています。

そうした思いもあり、環境教育部会は今年度の事業を「環境出前授業」に特化し、全力を集中して取り組んでいく事にしました。

新規メニューの開発に注力すると共に、既存メニューの見直しも図り、より判り易い、啓発効果のあるメニューの構築を目指していこうと思っています。勿論そこにはSDGsを盛り込むことは言うまでもありません。

そしてその「授業」を受けてもらう事が、1人でも多くの児童にエネルギーや地球環境の事を知ってもらい、「自分たちに出来ることは何かあるのか」を考え、行動してもらえるきっかけに繋がると考えるのです。



**私たちの活動や考え方に共感いただける方、
一緒に活動しませんか？
引き続き会員を募集しています！**

公共交通部会

バス！のってスタンプラリー たくさんの人に楽しんでもらいました

「第31回バス！のってスタンプラリー くらわんか茶碗をさがせ！」を、令和3年10月1日～令和4年1月10日まで開催しました。参加者数は417人でした。新型コロナウイルス変異株との共存状態が続く状況下にもかかわらず、大変多くの方にご参加いただいたことに感謝しています。

また今回の取り組みには、8事業者様に協賛いただき商品をご提供いただきました。これら景品の抽選に405名の方が応募され、当選された20名の方々には大変喜んでいただきました。エコフォーラム時にスタンプラリーの当選者に景品をお渡しする予定でしたが、コロナの感染状況を勘案し、郵送または持参でのお届けとしました。これまでの春秋の1日イベント以外に、こうした形式のスタンプラリーも喜んでいただけるという事が実感でき、今後の継続開催も検討していきます。



自然エネルギー部会

カーボンニュートラル社会へみんな GO!

持続可能な社会の実現を目指すための17の目標SDGs。その13番目に「気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じよう」があります。

自然エネルギー部会では、“影響を軽減するための緊急対策”というような大きなことはできませんが、まずは、再生可能エネルギーについて知る。例えば「どんなエネルギーがあるんだろう」「枚方ではどんな再生可能エネルギーを普及させることができるんだろう」等々です。また気候変動によって、私たちの身近で今何が起きているかを知るという事も重要です。例えば「サクラの花の大きさが小さくなっているんだって」

「雨が降る時は豪雨になるけれど、雨の降る日数は減っているんだって」「おコメの品質が悪くなっているんだって」等々。



こんなふうに、先ずは皆さんと一緒に知ることから始めたいと思っています。そしてカーボンニュートラル社会に向け私たち一人一人ができることをやっていける状況を創っていけたらと思っています。もちろん行政に向けた働きかけを行うことも忘れてはならないと思っています。

レジ袋の有料化に見られたように「仕組みを作ると社会も変わる！」という事です。